

「21世紀にふさわしい公園づくり委員会」

第5回 委員会資料

【暫定基本計画】

1. 計画の前提	-----	1
2. 整備・活用の方針	-----	3
3. ゾーニングと利用イメージ	-----	5
4. 県民と行政とのパートナーシップによる公園整備と管理運営	-----	6
5. 整備内容	-----	7
6. 全体計画	-----	15

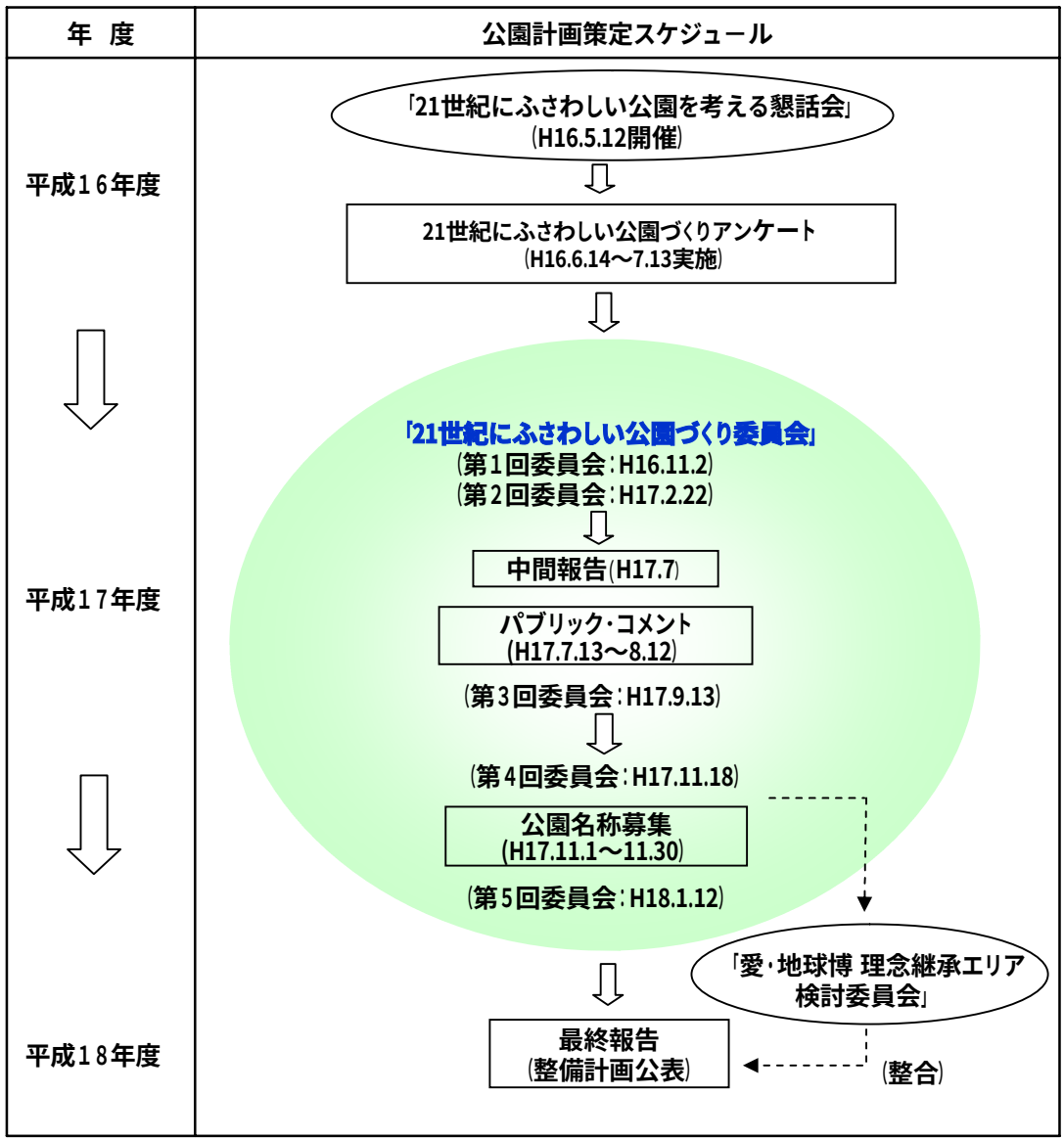
1 計画の前提－1

(1) 計画の目的

愛知青少年公園は、昭和45年の開園以来、青少年の健全育成はもとより、気軽に利用できるレクリエーションの場として幅広く県民に親しまれた。近年になって公園を取り巻く社会情勢は大きく変化し、少子化に対応する青少年健全育成環境づくりが重視されるとともに、ライフスタイルの多様化や高齢社会への対応、公園周辺の都市化にともなう防災機能の強化など、都市施設としての機能の充実が求められるようになった。そうした中、「自然の叡智」をテーマに「愛・地球博」が本公園で開催されることになり、これを契機として21世紀にふさわしい公園として整備を行うこととし、平成14年9月に都市計画決定を行った。

新公園の計画づくりについては、平成16年11月に「21世紀にふさわしい公園づくり委員会」を設置し、都市計画決定時に策定した4つの基本方針に基づき検討を進めた。本報告書は、委員会でのこれまでの検討内容について新公園の基本計画としてとりまとめたものである。なお、その中で、「博覧会の理念と成果を継承する場」と位置づけた一部エリアについては、平成17年11月「愛・地球博 理念継承エリア検討委員会」を設置し、より発展的に検討を進めることとした。また、本計画の全体とりまとめは、この一部エリアにおける検討内容と整合を図るものとする。

公園計画策定スケジュールは以下のとおりである。



(2) 計画地の位置

- 位置：・愛知県愛知郡長久手町南東部にあり、東部から南部にかけて瀬戸市と豊田市に隣接している。
- 立地環境：・尾張丘陵に位置する緩やかな起伏を持った緑豊かな丘陵地にあり、周辺には大学や研究機関等の集積も見られるなど、文化性の高い環境となっている。
- アクセス：・公園北側に猿投グリーンロード(主要地方道力石名古屋線)、西側に県道田村名古屋線が通る。
・博覧会時にリニアモーターカーによる東部丘陵線が開業。地下鉄藤ヶ丘駅を經由して名古屋市都心部から鉄道で結ばれた。
・博覧会にあわせて東名高速道路・日進IC～名古屋瀬戸道路・長久手ICの間が開通し、県外からのアクセスも容易となった。
- 規模：・敷地面積 約190ha

■ 愛知青少年公園の位置



※万博終了後、東部丘陵線駅「万博会場」は都市公園名、「万博八草」は「八草」に変更予定

記号	施設区分	記号	施設区分
	有料道路		東部丘陵線
	一般道路		大学
	鉄道		産業・芸術関連施設

1 計画の前提-2

(3) 公園利用の推移

愛知青少年公園 (閉園前)

- 32年の歴史を持つ広域公園
 - ・昭和45年、**青少年の健全育成**を目的に開園
 - ・**豊かな自然環境**の中に、屋外活動やスポーツ、文化、児童育成、宿泊などの**多様な施設**を整備し、青少年育成などの**ソフトプログラム**を展開
- 豊かな自然を育む園内環境
 - ・緩やかな起伏を持つ**丘陵地**にあり、**ため池**が多数散在
 - ・**アカマツ、コナラ**林が主体で**モンゴリナラ**も多数、**希少種**の生物も生育
- 年間約280万人の幅広い利用者
 - ・主に**家族やグループ**で利用、8割以上が**再利用**
 - ・目的は**リクリエーション・スポーツ、家族サービス**
 - ・利用の理由は「**豊かな自然**」「**利便性**」「**使いたい施設が充実**」
 - ・公園の将来像は、「**家族向けの公園**」「**自然豊かな公園**」(約3割)

※平成8年、11年のアンケート調査、13年度利用データより



温水プール
サッカー・ラグビー場

旧公園平面図



博覧会開催

- 期間 : 185日間 (平成17年3月25日～9月25日)
- テーマ : **自然の叡智**
自然の仕組みを学び、地球的課題を克服し、持続可能な社会を創生
サブテーマ: 宇宙・生命と情報
人生のわざと知恵
循環型社会
- 博覧会の結果:
 - ・121ヵ国・4国際機関と、多くの市民・NPO・ボランティアが参加
 - ・来場者数: 約2205万人 (目標1500万人)
 - ・子どもから高齢者まで幅広い年代層の来場者
 - ・約4割がリピート来場者
 - ・平均入場回数 (全期間入場券利用者): 11.05回
 - ・「見に来て良かった」44.4% 「まあまあ良かった」35.2%

博覧会会場図



博覧会施設撤去後

本公園は、博覧会施設の撤去後、新公園の基本計画に従って新たに整備を進めていくが、次の区域・施設については既に整備が実施されており、今後も継続利用することとなっている。

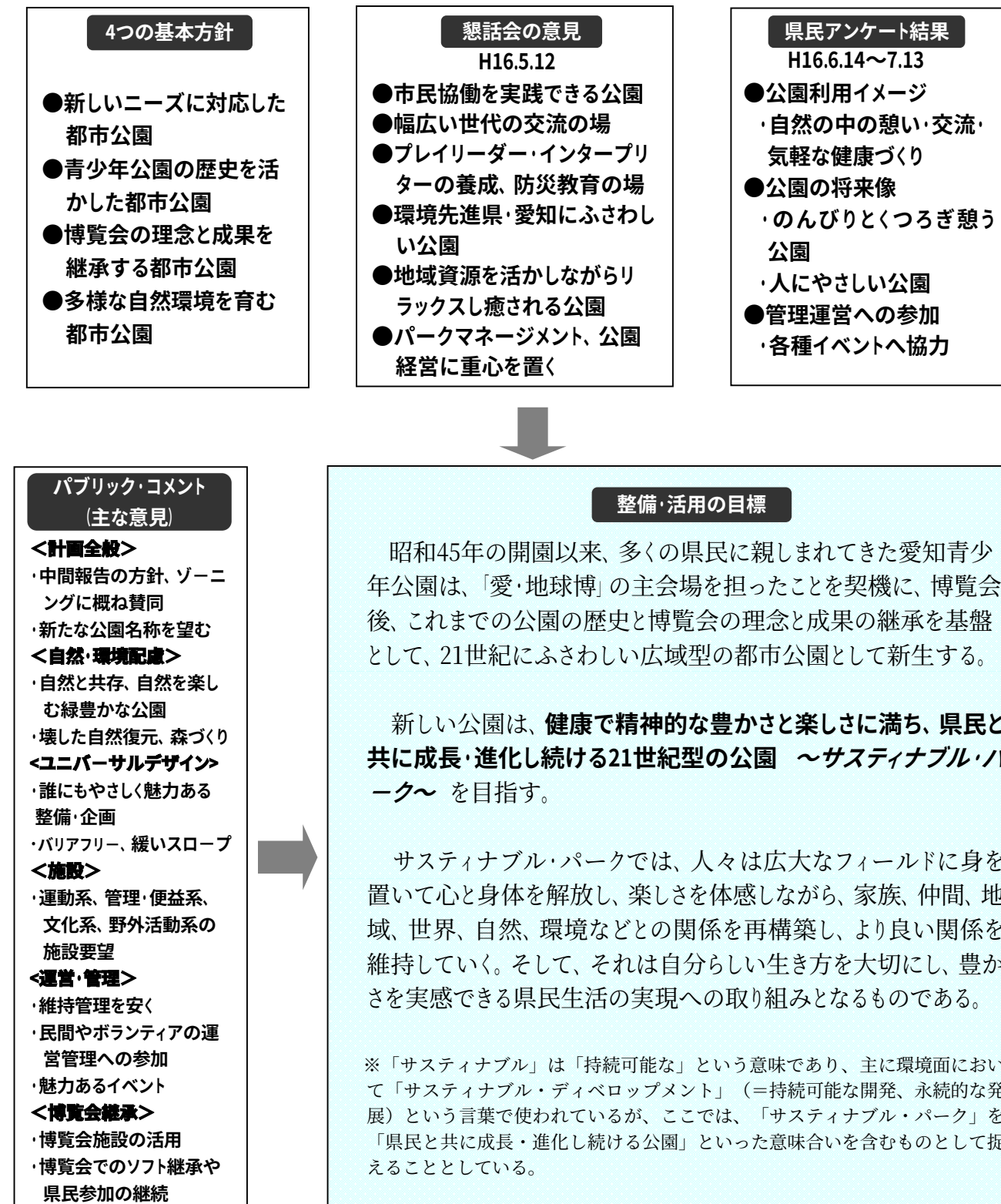
- 継続利用する旧公園の施設
 - 「**愛知県児童総合センター**」「**国際児童年記念館・童話館**」「**温水プール・アイススケート場**」
- 都市公園決定時に定めた4つの基本方針に基づき、博覧会前に整備した区域・施設
 - 「**もりのゾーン**」「**自然体感遊具**」
- 存置活用する博覧会施設
 - 「**迎賓館・レセプションホール**」「**グローバルループの一部**」「**愛知県館の事務棟**」「**観覧車 (5年間の暫定的存続)**」「**サツキとメイの家 (3～5年間の暫定的活用)**」



2 整備・活用の方針－1

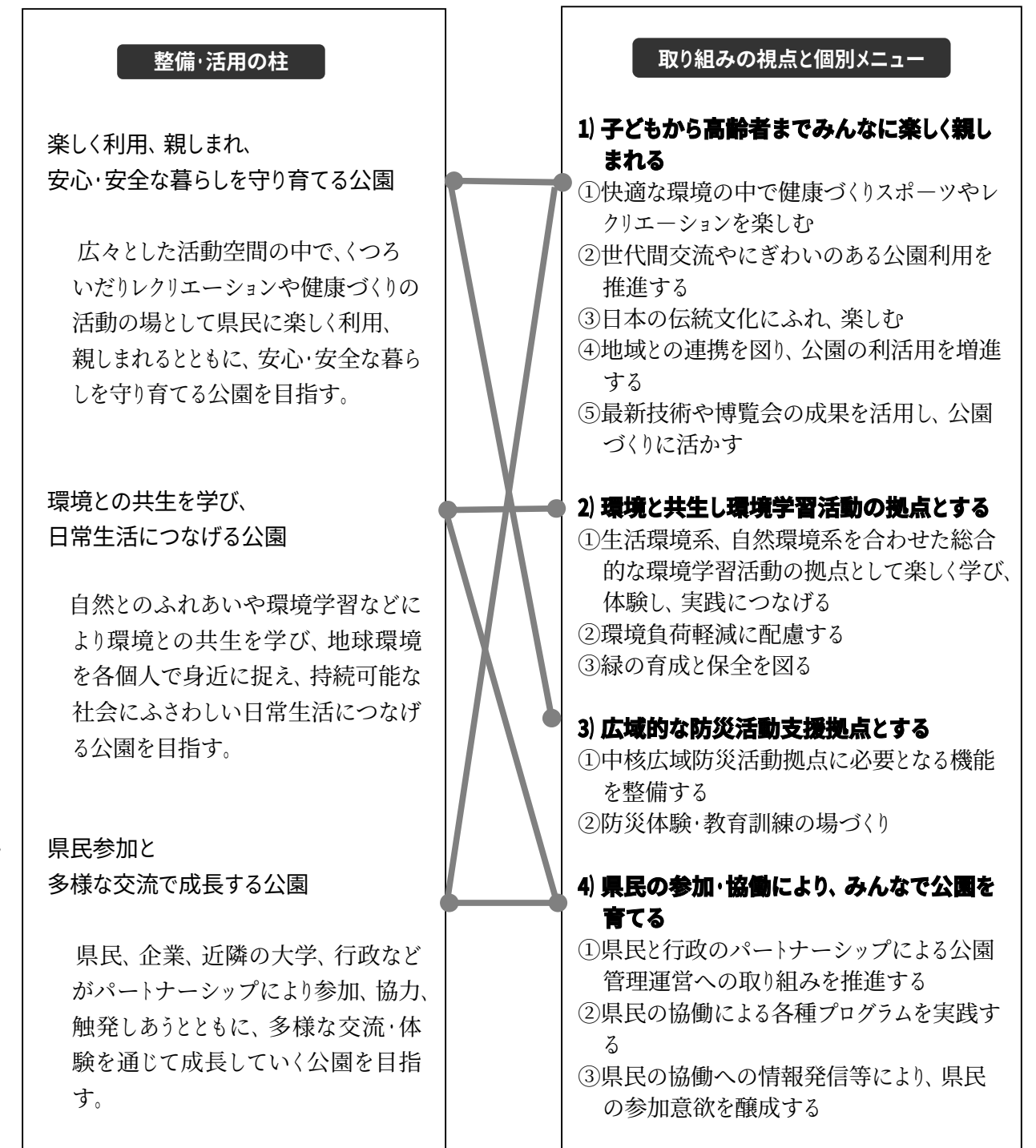
(1) 整備・活用の目標

愛知青少年公園計画の骨格となる「整備・活用の方針(案)」は、計画策定に先立って開催された「21世紀にふさわしい公園を考える懇話会」、および「県民意見聴取(アンケート調査)」の内容を踏まえて検討を進め、以下のように目標を設定した。



(2) 整備・活用の柱と取り組みの視点

整備・活用の目標を実現していくための指針となる「整備・活用の柱」、および、その具現化を図るための「取り組みの視点と個別メニュー」を、以下のとおりとした。



2 整備・活用の方針－2

(3) 個別メニューの内容

4つの視点の個別メニュー毎における具体的な展開方策、及びその方策を展開するのに必要となる空間条件は以下のとおりである。

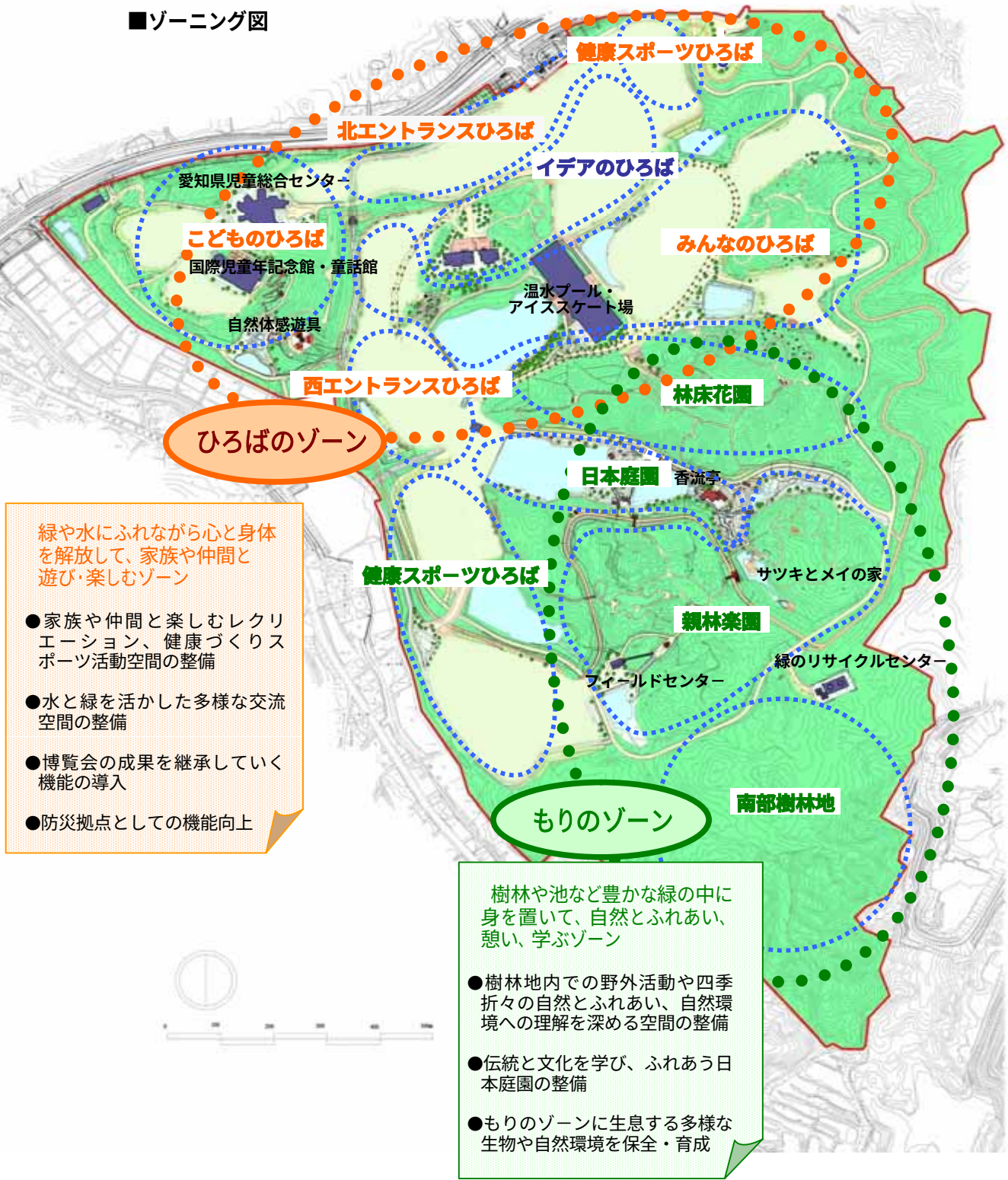
■個別メニューの内容一覧表

取り組みの視点	個別メニュー	展開方策	必要となる空間条件
1) 子どもから高齢者まで みんなに楽しく親しまれる	①快適な環境の中で健康づくりスポーツやレクリエーションを楽しむ	・健康づくりスポーツ・レクリエーション施設の整備 ・こども空間の充実 ・ユニバーサルデザインの推進 ・季節毎の景観を楽しめる整備	・まとまりのある広い平坦地 ・児童総合センター周辺のフィールド空間 ・園路広場等
	②世代間交流や、にぎわいのある公園利用を推進する	・県民参加プログラムやイベント開催 ・活動や交流の場の設置	・2つの入口からアクセスしやすい広々とした芝生空間や広場
	③日本の伝統文化にふれ、楽しむ	・日本庭園での伝統と文化に触れ合うプログラム・イベントの実施	・日本庭園
	④地域との連携を図り、公園の利活用を増進する	・周辺の大学、企業、小中学校、NPO等との連携 ・リニモとの連携を推進する	・公園エントランス周辺のアクセスしやすい空間及びフィールド全域
	⑤最新技術や博覧会の成果を活用し、公園づくりに活かす	・博覧会のソフトプログラムやイベントの継承 ・企業との連携を図ったモデル展示の場、情報発信の場	・人が集まりやすい公園中心部の空間
2) 環境と共生し環境学習活動の拠点とする	①生活環境系、自然環境系を合わせた総合的な環境学習活動の拠点として楽しく学び、体験し、実践につなげる	・総合的な環境学習活動拠点機能の導入 ・環境学習プログラムの展開 ・企業との連携を図った先進環境技術紹介の場、小学校等の環境学習の場として活用 ・環境学習ネットワークの形成	・人が集まりやすい公園中心部の空間 ・樹林地、ため池、園路広場等の環境学習活動ができるフィールド
	②環境負荷軽減に配慮する	・環境負荷軽減型技術を活用した整備（建設時） ・環境負荷軽減に配慮した運営管理 ・パーク＆ライドの実施	・園路広場等 ・リニモに隣接する駐車場
	③緑の育成と保全を図る	・博覧会に向けて整備された緑の育成と既存樹林地の保全 ・周辺景観との調和に配慮した修景緑化	・既存樹林地、植栽地
3) 広域的な防災活動支援拠点とする	①中核防災活動拠点として必要となる機能を整備する	・救援部隊の輸送機能の確保 ・非常時における防災活動支援機能の維持 ・救援活動拠点の確保 ・臨時ヘリポート確保	・防災支援活動拠点となる広い平坦地 ・園路、駐車場
	②防災体験・教育訓練の場づくり	・県民の防災意識向上につながる情報を発信 ・防災体験イベント、教育訓練プログラムの実施	
4) 県民の参加・協働により みんなで公園を育てる	①県民と行政のパートナーシップによる公園管理運営への取り組みを推進する	・公園整備・活用に関わる県民参加・協働の基本枠組み検討 ・県民参加・協働のノウハウを開発し、他の県営公園へ展開	・公園エントランス及び各エリアへのアクセスが良好で公園の全体管理に適した空間
	②県民との協働による各種プログラムを実践する	・県民参加のもとに成長するサステナブルな公園づくり ・公園整備の進捗に合わせて各段階で協働プログラムを実践 ・インタプリター、プレイリーダーなど指導者の育成	・協働プログラム等の実践空間 ・フィールド全域 ・人が集まりやすい公園の全体管理に適した空間
	③県民との協働の情報発信等により、県民の参加意欲を醸成する	・公園情報発信・意見募集機能の充実 ・公園に興味ある県民の情報交流を推進	・人が集まりやすい公園の全体管理に適した空間

3 ゾーニングと利用イメージ

公園のゾーニング(空間構成)は、以下の図に示すとおりである。また、各エリアの性格と主な利用イメージを、右表に整理した。

■ゾーニング図



■各エリアの性格と利用イメージ

名 称	エリアの性格	利用イメージ
みんなのひろば	水と緑の中での多様な交流	・池や水路などの水辺空間や背後にある樹林地を取り込んだ魅力的な交流空間 ・芝生広場のような多目的利用が可能な開放的な空間で、子どもから老人までの幅広い公園利用者が、多様な交流を賑やかに展開 ・各種イベント・プログラムの展開、県民協働による公園づくりプログラムの実施 ・野外活動、資源循環・自然エネルギー等についての体験学習、ディキャンプ利用 ・非常時における防災支援活動拠点として利用
	子どもの遊び・体験・レクリエーション	・子どもの遊び・体験・レクリエーションの場として利活用 ・愛知県児童総合センター、愛知国際児童館との連携 ・自然エネルギーを活用した遊具や施設、利用プログラムの導入 ・県民協働による子どもを中心とした公園づくりプログラムの実施
	健康スポーツひろば	・緑に囲まれた広い空間、環境を活かした県民の複合多目的な健康づくりスポーツの場(サッカー、野球など)として利用 ・利用メニューは、旧公園の利用実態や周辺分布状況を考慮し決定 ・非常時における防災支援活動拠点として利用
	北エントランスひろば 西エントランスひろば	・公園の顔となる華やかな空間 ・環境共生に配慮した空間 ・公園全体案内や情報提供 ・公園管理運営機能・休憩機能・飲食機能・防災支援機能の配置 ・リニモ公園駅や駐車場からの安全で快適な利用 ・公園の全景を見渡することができる(北エントランス) ・パーク&ライド(北エントランス) ・防災時の緊急車両駐車スペースとして利用
	アイデアのひろば	・博覧会の理念と成果の継承の場 ・博覧会成果を継承、例えば資源循環などへの取り組みを関係機関や団体、企業、市民と協働で実践 ・博覧会で培われた交流の場としての継続的活用
もりのゾーン	林床花園	・ユニバーサル園路を利用して誰もが森に入って四季折々の風景を楽しむ ・環境学習の場として利用
	日本庭園	・伝統文化とのふれあい拠点として多面的に利活用 ・鑑賞会、茶会、月見会、お花見会等、各種イベントを、関係団体や県民等とのパートナーシップによる開催を検討
	親林楽園	・樹林地内での活動を通じて身近な自然にふれあい、学習し、自然環境への理解を深める場として利用 ・フィールドセンターを活動拠点として利用 ・リサイクルセンターでは刈草・剪定枝をチップ化及び堆肥化し、園内リサイクルを実践
	南部樹林地	・樹林地保全のために整備を抑制するエリア ・観察会等の環境学習プログラムとの連携により、必要時に開放し、自然学習・教育活動を実施 ・インタープリター活動と合わせての利用を検討、エコツアーの実施など

4 県民と行政とのパートナーシップによる公園整備と管理運営

県民と行政とのパートナーシップによる公園整備と管理運営の方針は下記のとおりとする。

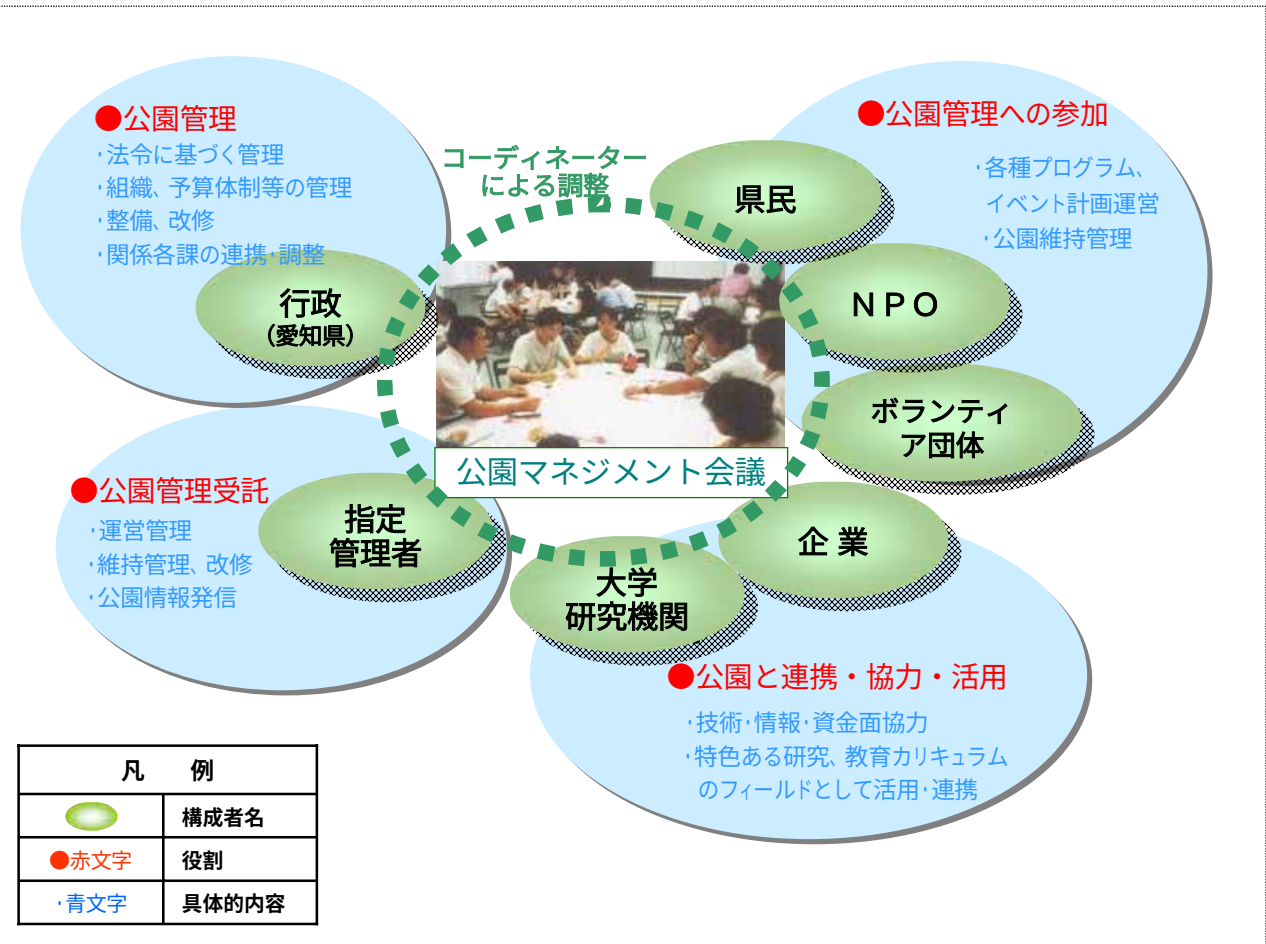
①様々な段階での県民参加の推進

・本公園では、博覧会の大きな成果である「市民参加・市民協働」を継承し、公園の計画・設計・整備・管理・運営等の様々な段階において県民参加を推進し、利用者みんなで公園を育てていく。

②公園マネジメント会議の設置

・本公園に地域の人々や企業、NPO、大学等が効果的に関われるよう、各々の役割を考慮し、県民が互いに関係しながらみんなで公園を育てていく管理運営を進めていくため、県民と行政のパートナーシップにより構成された「公園マネジメント会議」を設置する。ここでは公園管理の基本となる管理内容の他、役割分担、市民参加プログラムの検討を行う。

■公園マネジメント会議の構成者とその役割



③ボランティア活動の推進

・公園管理運営について、県民がボランティアとして参加できるシステムを構築する。ボランティアを、公募・養成し、ボランティア活動が実践されていく中で、活動者自身の発案によるイベントやプログラムの企画運営など、公園管理に自主的に関わっていくことができるようにする。

・ボランティアの養成については、特に、地域活動への関心が高く、豊かな社会経験を持つシルバー世代を対象としたボランティア養成を実施し、園内フィールドを、世代間交流の場、自分の特技を生かす活動の場、生きがいづくりの場として提供する。

④県民が主体的となる管理運営への段階的な発展

・管理運営に関する県民と行政とのパートナーシップは、短期間で構築できるものではなく、継続的な活動実践のもとに徐々に進めていく。そして将来的には、行政主体による管理運営から、県民と行政とのパートナーシップによる管理運営へ発展させる。

・段階ごとの取り組み内容は以下のとおりである。

■公園への県民参加のステップ

	<目標>	<運営主体>	<取り組み内容>
基盤づくり期	・公園での活動を体験し、継続的に参加してもらう (5年間程度)	公園管理者(愛知県) 指定管理者 NPO等 公園マネジメント会議	・ワークショップ型公園づくり空間の整備による計画段階からの県民参加 ・ボランティアの公募・養成・組織作り ・県民参加の推進を目的とする講演会の実施 ・NPO、大学、企業、専門家など公園管理運営に関わってもらう諸団体の参加・協力要請 ・運営プログラム等での活動実践
		発展	
将来期	・行政と県民とのパートナーシップによる公園管理運営 (6年目以降)	公園管理者(愛知県) 指定管理者、大学、研究機関、企業、NPO 県民、ボランティア団体 公園マネジメント会議	・県民の自主的な管理運営プログラムによる活動実践、情報発信 ・新規ボランティア等の継続的な募集・育成

5 整備内容－1

(1) 各ゾーンのソフト展開

①公園全体で一貫性のあるソフト展開

本公園が一定の目標に向かって成長できるよう、園内で展開されるソフトプログラムに対し、整備・活用の方針から導かれる共通テーマを設定する。本公園が目指すのは「サステナブル・パーク」であり、テーマとしては、「環境」「参加と交流」の2大テーマでの展開が考えられる。

②共通テーマに基づいた運営プログラム例

園内で展開されるソフトプログラムは、公園管理運営の中心となるマネジメント会議にて全体統括し、各エリア毎で共通テーマに基づいた様々なプログラムを実践していく。

各プログラムの企画、運営は、基盤づくり期においては行政や専門家のアドバイスが必要であるが、将来期にはNPOやボランティア団体等の県民主体型の取り組みにより進めていくものとする。そして、公園整備については、これらのプログラム運営に必要な機能や規模を備えた施設整備を図るものとする。

各ゾーンにおいて、上記の2大テーマに沿った、整備・活用の目標の実現への取り組みにつながる運営プログラム例を検討した。(下図及びP.8～P.9参照)

なお、これらのソフトプログラムは、活動の展開や種類に応じて、公園内から公園外へも広がりを持つものである。

■共通テーマに基づいたプログラムの方針及び運営プログラム例

展開エリア	2大テーマ	
	環境	参加と交流
こどものひろば	子ども向けの身近な生活系環境学習 ・省エネカー・ソーラーカー体験乗車 ・環境教育要素遊びのプログラム など	子どもの遊び、多様な体験交流 ・遊びの王国づくり、物語ひろばづくり ・ツリークライミング、グローイングビレッジ ・子育て支援・各種遊びのプログラム など
みんなのひろば	総合的環境学習 ・最新緑化技術紹介プログラム ・サステナブルな県民公園づくり など	国際交流、地域間交流、博覧会を継承した交流 ・各種県民参加プログラム ・県民花づくりプログラム ・キャンプリーダーとのクッキング教室 ・季節の地元食材の青空レストラン など
健康スポーツひろば	—	健康づくり、スポーツを通じた交流 ・健康づくりプログラム ・マラソン・ジョギング大会 ・各種スポーツ大会 など
日本庭園	自然・文化・昔の知恵に関する体験・学習・イベント ・自然と融合した庭園を活用した造園技術講習会 など	伝統・歴史・文化に関するイベント ・県民参加の伝統文化継承プログラム ・日本独自の文化・季節行事 ・あかりアート など
親林楽園 林床花園 南部樹林地	自然環境学習、資源循環の環境学習 ・環境学習・樹林管理プログラム ・緑のリサイクルセンター ・見学ツアー、堆肥配布会 ・インタープリターガイドツアー など	自然を通じた交流活動 ・インタープリター養成プログラム など

全体統括

公園マネジメント会議

③県民参加形態の区分

本公園では、県民の参加・協働によりみんなで公園を育てていくため、公園整備・活用の各段階において、県民の参加を図っていく。

公園づくりにおいては、県民の関わるレベルに応じて県民参加の形態が区分される。(下表参照) 本公園では、各エリアの性格や利用イメージに応じて県民参加のレベルを検討し、利用イメージから導かれる施設や広場ごとに県民参加形態の区分を設定した。(P.8～P.9参照)

この県民参加形態の区分設定は、今後の公園整備や管理運営の展開や公園マネジメント会議の成熟度などに応じて随時見直しを行い、公園全体において高いレベルでの県民参加の実現を目指していく。

■県民参加形態 (県民参加のレベル)

県民参加レベル		定義 (県民と行政の関係)	プログラムへの関わり方	県民参加形態
県民の関わり	高	パートナーシップに基づき企画から実行まで、行政と市民が役割を分担して目的達成を図る 行政 [主体] = (対等) = 市民 [主体]	公園マネジメント体制への参画 各プログラムへの企画・運営・参加	★ 施設づくり
		行政により設けられた場に目的を持って、場づくりや運営など各プロセスの場面に能動的に関わり提案する 行政 [主体] ≥ 市民	各プログラムへの能動的参加	★ ソフト企画 ★ ソフト運営管理
		行政により設けられた場に受動的に参加する 行政 [主体] > 市民	各プログラムへの受動的参加	★ 維持管理

■県民参加形態の区分内容

県民参加形態の区分	県民参加形態の内容
★ 施設づくり	県民との協働により、公園整備の企画から施設施工、運営管理までを実施する
★ ソフト企画	県民との協働により、エリアのソフトプログラムの企画から運営管理までを実施する
★ ソフト運営管理	県民の参画により、エリアのソフトプログラムの運営管理を実施する
★ 維持管理	県民の参加・参画により、園内施設や植栽の維持管理を実施する

5 整備内容－2

■ソフト展開の内容－1

■こどものひろば ～子どもの遊び・体験・レクリエーション～

[整備施設]

- 県民公園づくり空間** ★★★★★
・子どもたち自らがものをつくる体験を通して、創造性を高めるワークショップ空間
[運営プログラム]
遊びの王国づくり、物語ひろばづくり、郷土の玩具づくり



- 乗り物体験広場** ★
・ワクワク感、爽快感などを体験できる乗り物遊戯空間
[運営プログラム]
未来型乗り物・面白乗り物の乗車体験(省エネカー、ソーラーカー等)



[博覧会前整備施設]

- 自然体感遊具** ★★★★★
・自然の力や仕組みを体験する遊戯施設で楽しく遊びながら自然を理解する空間
[運営プログラム]
ツリークライミング、グローイングビレッジ



[既存施設]

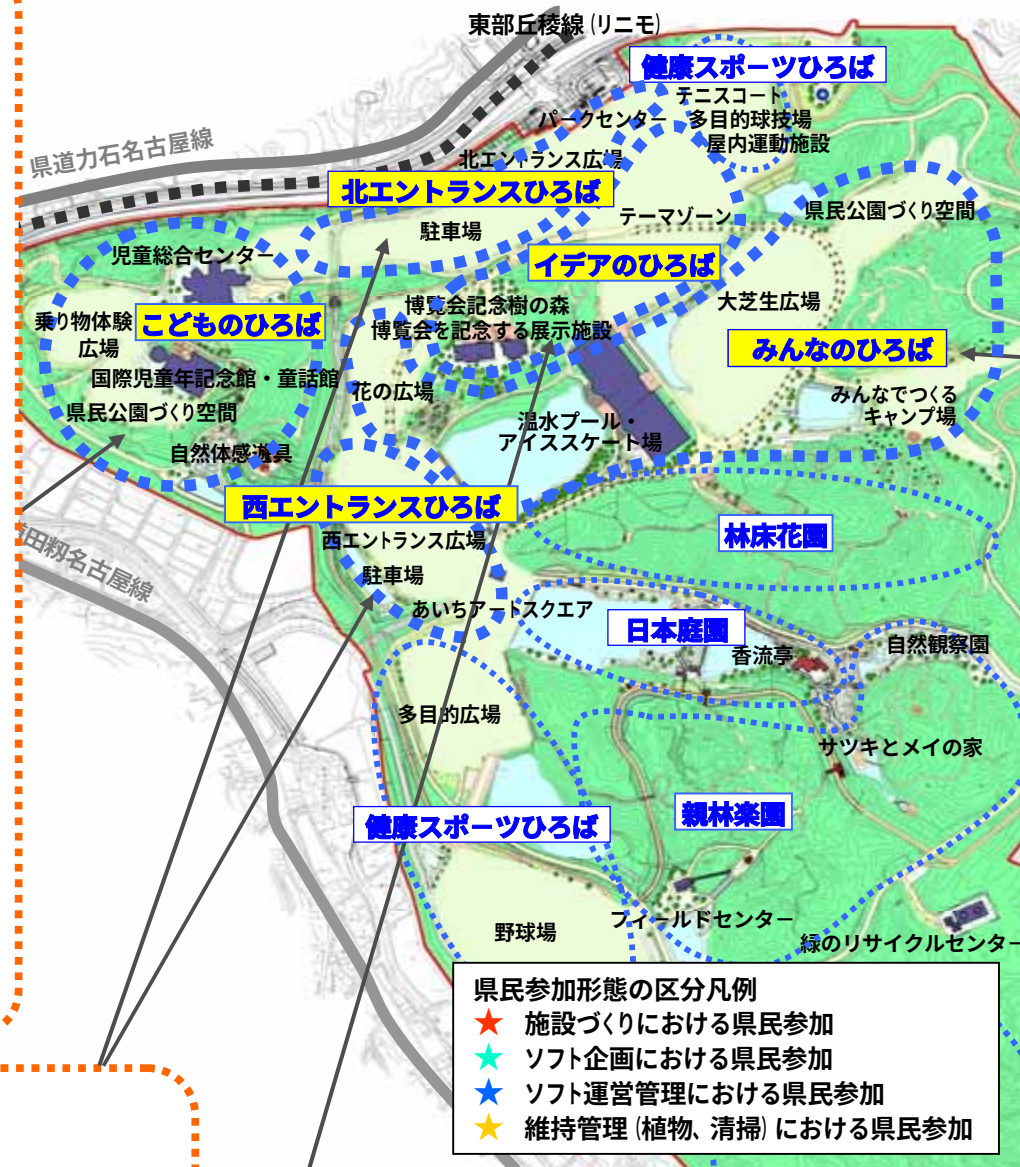
- 児童総合センター** ★
・児童の健全育成と子育て環境づくりの推進
[運営プログラム]
見る・触れる・感じる・考える・身体を動かす等、全身の感覚をフルに発揮させる新鮮な遊びのプログラムや育児支援プログラム
- 国際児童年記念館・童話館** ★
・児童の健全育成の推進
[運営プログラム]
子どもホールを活用した子ども発表会



■エントランス(北・西) ～公園の顔となる空間～

[整備施設]

- 北エントランス広場** ★
・力石名古屋線、リニモ駅から安全快適に利用できる入口、広々とした公園の高台にあり、開放性の感じられるひろばの明るいイメージを演出
- 公園管理の中心的役割を担う施設(パークセンター)：北エントランス** ★★★★★
・公園管理運営、県民参加活動拠点、休憩、飲食、インフォメーション、屋内運動、防災時対応(アイデアのひろばの具体化に伴い、必要があれば見直しを行う)
- 西エントランス広場** ★
・田村名古屋線からのアクセスに対応した入口、もりのゾーンに近接した入口として池や森を背景とした落ち着いたイメージや入口としての象徴性を演出、公園のシンボルとなるモニュメントの設置
- あいちアートスクエア：西エントランス** ★★★★★
・彫刻等を配し、瓦などの県産材を舗装等に活用した広場、施設づくりから県民も参加
- 駐車場** ★
・公園北口の混雑緩和を図ることと公園利用者の利便性を考慮し、北・西の両エントランスに配置



- 県民参加形態の区分凡例
- ★ 施設づくりにおける県民参加
 - ★ ソフト企画における県民参加
 - ★ ソフト運営管理における県民参加
 - ★ 維持管理(植物、清掃)における県民参加

■アイデアのひろば ～博覧会の理念と成果を引き継いだ展開～

- ・博覧会テーマを引き継ぎ、それらの成果をさらに発展させる展開の場

[整備施設] ※県民参加形態についても今後検討する

- 博覧会の理念と成果を引き継いだテーマを展開するゾーン(テーマゾーン)**
- 博覧会を記念する展示施設**
・博覧会参加国から贈呈された記念品の展示
・迎賓館、レセプションホールを活用
- 博覧会記念樹の森**
・博覧会参加国による植樹セレモニーの記念樹を移植



■みんなのひろば ～水と緑の中での多様な交流～

[整備施設]

- 大芝生広場** ★★★★★
・大勢の人が参加・交流できる多様なイベントに対応する広く開放的な空間
・健康づくりイベント、万博記念イベント、野外コンサート、防災の日イベント等
・いろいろな県民参加イベント・プログラムの主会場とする
・博覧会時の愛・地球広場の人工芝及びステージを活用
[運営プログラム]
各種県民参加交流にかかわるプログラム



- 花の広場** ★★★★★
・花や緑のまちづくり推進に役立つ緑化技術の提案や花を生活に取り入れるライフスタイルの提案
・花・緑の育成管理技術の研修・講習会の開催の場として展開
・花木や草花により、四季の景を楽しむデザイン花壇やバイオラングの技術を活用した垂直花壇
・季節の花祭りイベント、フラワーカフェ
[運営プログラム]
県民花づくり、企業の最新技術紹介、花遊びの伝承花壇コンテスト、花壇や花畑の世話



- みんなでつくるキャンプ場** ★★★★★
・県民参加型による施設計画
・デイキャンプ等の気軽な日帰り型アウトドアレクリエーション施設、学校行事や団体行事で一同に集まってみんなで料理をつくるアウトドアクッキング空間
・県民参加による料理の相談・指導等



- [運営プログラム] キャンプリーダーによるクッキング教室、季節の地元食材を紹介・試食する青空レストラン

- 県民公園づくり空間** ★★★★★
・持続可能な社会づくり、「サステナブル」に関わるテーマに基づいた県民協働による公園づくりの場、県民公募型ワークショップにより、つくる過程を大切にしながら少しずつ整備を進める

[運営プログラム]

- サステナブルをテーマとしたビレッジ(資源循環、自然エネルギー活用の体験村)づくり

- ～間伐材を使っの公園施設ベンチ、案内板、炭づくり、野鳥の家づくり、落ち葉を使っの堆肥づくり、森の遊び場づくり、昆虫のすみか穴掘り、風車づくりによるエネルギー体験など～



[既存施設]

- 温水プール** ★★
25m・流水・造波・ちびっこ・冒険プール、スライダー、ジャグジープールでの楽しい健康づくり空間、スイミング講習会の実施
- アイススケート場** ★★
周長200mの外周リンク、内リンクを活用したスケートによる健康づくり、スケート初心者向け教室、スケート練習の実施



5 整備内容－3

■健康スポーツひろば ～健康づくりスポーツを家族や仲間と楽しむ～

[整備施設]

- 各種健康づくりスポーツの場(兼用利用する多目的施設として計画) ★★
 - ・各種スポーツイベント・プログラムの開催、家族や仲間との健康づくりスポーツ利用の他、学校や企業、NPOにスポーツ等の場として活用してもらう

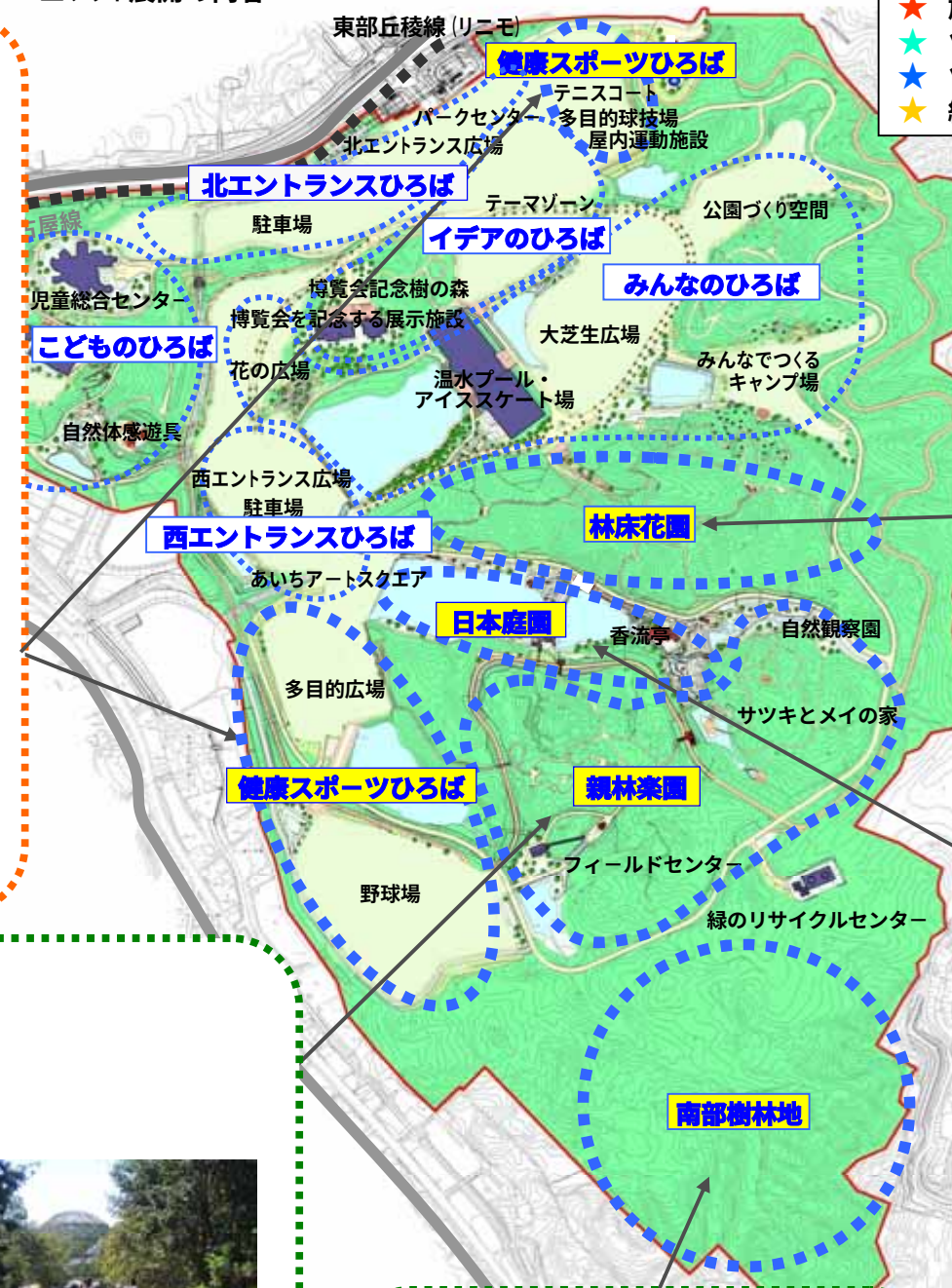
多目的広場(運動会、ジョギング、マラソン等)、
多目的球技場(サッカー、ホッケー、ラグビー、ラクロス等)、
野球場(軟式野球、ソフトボール)、
テニスコート、屋内運動施設(パークセンター内)、
サイクリングコース

[運営プログラム]

健康づくりプログラム、
マラソン・ジョギング大会等
各種スポーツ大会



■ソフト展開の内容－2



県民参加形態の区分凡例

- ★ 施設づくりにおける県民参加
- ★ ソフト企画における県民参加
- ★ ソフト運営管理における県民参加
- ★ 維持管理(植物、清掃)における県民参加

■林床花園 ～四季折々の樹林風景を楽しむ～

[整備施設] [博覧会前整備施設]

- 樹林地 ★★
 - ・間伐等の手入れにより多様な花木や草花の自生を促すことができる森づくり
- ユニバーサル園路 ★★
 - ・誰もが樹林地の自然に親しめる園路



[運営プログラム]

環境学習プログラム、
インタープリターガイドツアー、
樹林管理プログラム

■日本庭園 ～伝統文化とのふれあい～

[博覧会前整備施設]

- 日本庭園 ★★
 - ・水や緑に恵まれた環境の中で日本の伝統文化と触れあう庭園
- 茶室(香流亭) ★★
 - ・お茶会をはじめとする各種伝統文化関連プログラムへの一般貸し出しや呈茶サービスの実施

[運営プログラム]

県民参加の伝統文化継承プログラム、
茶会・能・月見会など日本独自の文化や季節行事開催、
自然と融合した庭園を活用した造園技術講習会、
あかりアート



■親林楽園 ～環境学習・野外活動～

[整備施設]

- 樹林地 ★★
 - ・樹林地の多様な自然を育む森づくり
- ユニバーサル園路 ★★
 - ・誰もが樹林地の自然に親しめる園路
- 自然観察園 ★★
 - ・水辺の植物、生物の観察空間
 - ・水路等の自然回復

[運営プログラム]

環境学習プログラム、樹林管理プログラム

- 緑のリサイクルセンター ★

・刈草・剪定枝をチップ化及び堆肥化、
園内リサイクルを実践、普及

[運営プログラム] 見学ツアー、堆肥配布会

[博覧会前整備施設]

- フィールドセンター ★★

・環境学習の活動拠点

[運営プログラム]

環境学習プログラム、インタープリターガイドツアー、インタープリター養成

- サツキとメイの家

・博覧会人気施設の期限付き存置活用



■南部樹林地 ～緑地保全～

[整備施設] ★★

- ・整備・活用は管理用園路など最小限にとどめ、希少種の保全を図る
- ・自然環境保全の研究の場として活用

[運営プログラム]

フィールドセンターを中心とした環境学習プログラムを通しての活用

